

職場において管理を主業務とする理学療法士も増大してきたが、組織としてのレベルの維持のためにコンプライアンスを上げていく必要がある。その期待に応えるべく、本特集では「動機づけ」に着目。給料が上らず明るく見えない将来展望を「何か」の力で維持向上すべきであろうと悩んでいる若い理学療法士も多い。その解決のヒントを得るために、モチベーションを上げる戦略の基礎と実践の両面から企画した。多様化する職場で組織というものはどうあるべきか、成功例を主体に管理・マネジメントの中身を「動機づけ」という側面から示したい。

■スタッフをその気にさせるリーダーシップ (吉尾雅春論文)

理学療法士が急増し、各組織が大規模化するなか、多様な価値観やモチベーション、技能を持つスタッフをリードしていくことは容易ではない。スタッフのやる気を引き出し組織をよりよい方向に導くには、リーダー自らが研鑽を積み自己変革を続けること、組織としての価値観をともに共有することが重要である。スタッフをその気にさせるためのリーダーシップについて、筆者の経験を交えて述べる。

■働く意味と人的資源管理 (谷内篤博論文)

医療専門職である理学療法士に焦点をあて、企業社会や組織人との比較を通して、専門職としての働く意味やキャリア形成のあり方、さらには理学療法士の定着促進に向けた A & R (Attraction & Retention) 策、理学療法士に対する望ましい人材マネジメントのあり方について解説する。

■理学療法士の動機づけ

1. 筑波記念病院での例 (斉藤秀之論文)

試行錯誤している「職場の動機づけ」あるいは「動機づけ支援」について、筆者の 25 年の理学療法士のキャリアを簡単に述べる。その振り返りにより得られた「経験知」が「職場の動機づけ」の根拠となり「形式知」化した。若い理学療法士が成長していくには「筏下り」の時期があり、多くの葛藤や変化を乗り越えた先に幸福が待っている。「利己的である前に利他的である」ことがキャリアの成功への近道であり、「動機づけ」とすることを推奨する。

2. 勉強会と理学療法士組織での活動例 (河野礼治論文)

現在、多くの理学療法士は、理学療法をやりがいのある仕事と感じている一方で、生涯理学療法士を続けることへの不安感をもっている人も多い。そのような不安を解消するには、臨床理学療法の課題や理学療法士のあるべき姿などについてあらためて考え、目標をもち、意欲的に行動できるような動機づけが重要ではないだろうか。本稿では、筆者がかかわっている勉強会と理学療法士組織での活動を紹介し、インフォーマル、フォーマルの両面から理学療法士としての動機づけについて考えてみたい。

3. 馬場病院での 30 年を通して (小牧順道論文)

本稿では、筆者の理学療法士としての 30 年にわたる経験を、様々な人との出会いや、筆者が勤務する馬場病院での実践や講習会、研究会活動を振り返りながら紹介したい。また近年若いスタッフを育てる立場から、自らの理学療法士像を確立していく理学療法士の共通点は、知識、技術と臨床経験の積み重ねから治療概念が形成されていることだと実感している。本稿を通して、若い理学療法士のモチベーションを高めるきっかけになればと願っている。

4. 板橋中央総合病院での例 (角本貴彦論文)

本稿では、筆者自身が理学療法士として現在に至るまでの経緯をモチベーションという観点から紹介する。また、最近若い理学療法士によく話していることや、私自身が日々考えていることについて、動機づけという視点から書いてみたい。動機づけられるのを待つばかりではなく、いかに自分で動機づくかを考えるための、何らかの一助になればと願う。

5. 神奈川県士会でのライフサポート活動を通してみえてきたこと (大槻かおる論文)

理学療法士は、その就労人生において、様々なイベントに遭遇する。(社)神奈川県理学療法士会会員ライフサポート部は、会員の遭遇するイベントにおける就労継続、休職、転職、離職、復職についての実態調査を実施した。また、産前産後休暇、育児休暇、介護休暇などの法令に関する情報発信や、託児室付の研修会など復職支援などを行っている。今回、その活動から見えてきた就労継続の動

機づけについて報告する。

6. 女性が動機を維持する秘訣（松葉好子論文）

女性が理学療法士，主婦，妻，母，介護者などの役割を同時進行させるなかでは，そのときの状況で役割の重みづけは変わる。しかしどのようなときでも，目の前にある事柄が自分を呼んでいる仕事である。必要とされる仕事から呼ばれたら，特別なことはできなくてもそのことを真摯に精一杯やればいい。今やっていることがきっと次のキャリアのドアを開く。必要とされる，今を大切にするこの繰り返しこそが，女性の動機を維持するのではないだろうか。